

ニュージーランド 早生リンゴがアジア向けに輸出開始

[FreshPlaza](#) 2025年2月5日

北島の東海岸で早生リンゴの収穫が始まり、リンゴの輸出シーズンの始まりを告げている。スケールズ社傘下の大手生産事業者であるミスターアップル社は、ホークスベイ地方でリンゴを栽培し、約40の国際市場に輸出している。

営業販売部長のベン・マクロード氏は、収穫の開始について「ちょうど始まったところだ」と言う。同社が権利を有するポージー (Posy) 等の早生品種が収穫、梱包されている。同氏は、「先週の時点で既に船積みされており、それはすべてアジア市場向けである」と述べた。

ネーピア市近郊の同社のミーニー果樹園では、輸出用のリンゴの調製を行っている。フェイスブック上で更新されたネーピア港の投稿では、リンゴの入荷と輸出が確認され、中国に向けて出航する船には同社のリンゴ5コンテナが積まれているとしている。投稿は、「まだ出荷シーズンの早い段階ではあるが、早生品種がサプライチェーンに流れ始めており、このタイミングは例年どおりである」としている。

マクロード氏は、暖かく雨の少ない11月がシーズンを加速させ、12月と1月上旬は気温が低く、生育条件は良好であったと報告した。同氏は、「皆が思っていたほどは早くはない」としつつ、果実の品質は並外れて良いと指摘し、「おそらく2018年以降で最高の部類の果実である」と述べた。

マクロード氏は、認定雇用主制度に基づく太平洋諸島の収穫労働者の貢献を強調した。(以下省略)

出典: [RNZ](#) (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

ニュージーランド ルビーレッド・キウイの輸出が2倍に

[FreshPlaza](#) 2025年2月5日

今シーズンは、300万箱以上、すなわち1万800トン以上のゼスプリ・ルビーレッド™・キウイフルーツが出荷され、多くの市場でそのベリーのような味わいの果実が初めて入手できるようになる。

ルビーレッドの収穫は、今後数週間の内にニュージーランド国内で開始され、中国本土への出荷量は100万箱(3,500トン)を超え、さらに100万箱を日本へ出荷する。また、フィリピン、インドネシア、タイ及び太平洋諸島では、今シーズン初めてルビーレッドが入手できるようになる。

ジェイソン・テ・ブレイクCEOは、昨シーズンに比べて出荷量が倍増するキウイフルーツにとってエキサイティングな時であり、これはベリーのような甘い味、鮮やかな赤い果肉の色、高い抗酸化物質含有量による健康上の利点を好む消費者にとって素晴らしいニュースであると述べている。(以下「」は同氏の話)

「2月中旬に収穫が始まる予定のゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツは、まもなくアジア太平洋地域の多くのスーパーや青果店で販売される。中核市場である中国本土、台湾、日本、韓国では入荷量が増え、ニュージーランド、香港、シンガポール、マレーシアの市場にも戻って来るほか、新市場にも投入される。」

ルビーレッドは、国立植物・食品研究所と提携したゼスプリのキウイフルーツ育種プログラムにより生まれた最新の品種で、2025年は商業生産の4年目を迎える。天然のビタミンCが豊富で、果実中の天然色素のアントシアニンが果実に赤い色を与えている。

テ・ブレイク氏によると、ルビーレッドはゼスプリのグリーンキウイフルーツとサンゴールドキウイフルーツを補完する人気品種で、キウイフルーツに新規の消費者や若い消費者を引き付けるのに役立っている。

「ルビーレッドは、グリーンやサンゴールドよりも季節性が強く、強い需要が見られる。毎シーズン最初に市場に入荷するニュージーランド産品種であり、一旦スーパーや青果店の店頭と並べば最長8週間しか手に入らない。出荷量が増加しているのは素晴らしいことであり、我々は引き続き同品種に関する知識を蓄積している。生産量の増加は、需要をさらに拡大し、生産者に還元できる価値を最大化するチャンスにもなる。」